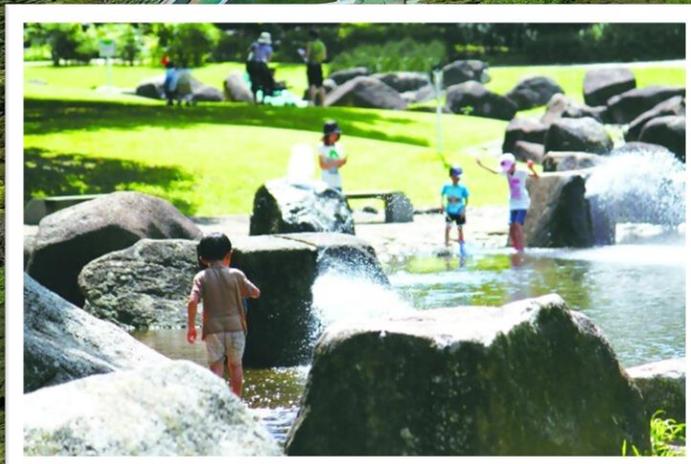
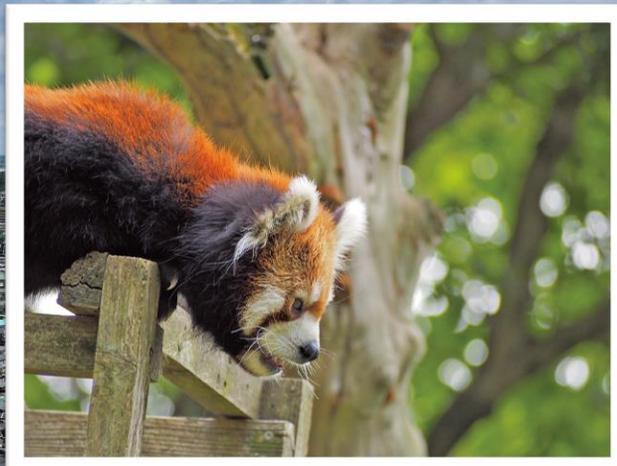


ひととまちがともに輝く 未来に向けたまちづくり



千葉開府 900年

千の葉に 時を刻んで 900年

2024年度下期 市長と語ろう会



すべての世代で“転入超過”

転入超過数（上位10都市の年代別内訳）

住民基本台帳人口移動報告 2023年（令和5年）結果

順位(R4)	都市	総数	0-9歳	10-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上	対前年 増減数
1(1)	東京23区	53,899	-10,339	8,539	89,812	-6,749	-6,636	-7,150	-13,578	32,479 (1)
2(3)	大阪市	12,966	-3,354	1,432	16,755	-2,183	-150	444	21	3,863 (2)
3(5)	横浜市	9,731	-354	1,904	8,493	1,219	64	-663	-932	1,305 (6)
4(4)	札幌市	8,933	251	2,054	1,822	365	681	823	2,937	20
5(6)	福岡市	8,911	18	2,489	4,509	506	362	239	788	2,880 (4)
6(2)	さいたま市	7,631	811	653	3,458	1,845	579	-138	423	-1,651
7(17)	川崎市	5,475	-2,364	1,136	11,582	-1,702	-1,152	-1,108	-917	3,266 (3)
8(8)	千葉市	5,088	267	864	1,802	955	494	249	457	1,569 (5)
9(26)	茅ヶ崎市	2,520	-	-	-	-	-	-	-	960
10(25)	平塚市	2,499	-	-	-	-	-	-	-	932

5～9歳は全国4位、30～49歳は2位



千葉市は、
子育て世帯を含む
全世代で転入超過

東京23区、大阪市や川崎市は、
0～9歳がいる子育て世代で
転出超過



千葉市への転入者アンケート

千葉市への主な転入理由は、

- ・「通勤・通学の利便性」
- ・「住宅価格・家賃」
- ・「都市機能(交通・道路ネットワーク、買い物などの利便性)」
- ・「身近な緑・環境」など

「住まい変更」WEBアンケート (期間2023.6.1~2024.5.31)

◆千葉市を転入先に選んだ理由 ※複数回答可。回答数565

- | | |
|--------------------|-------|
| ① 通勤・通学に便利だから | 48.5% |
| ② 住宅価格・家賃が手ごろだから | 30.1% |
| ③ 親族・知人が住んでいるから | 23.9% |
| ④ 交通が便利だから | 21.1% |
| ⑤ 日常の買い物が便利だから | 18.6% |
| ⑥ 公園・自然環境が充実しているから | 11.9% |



ひととまちがともに輝く未来に向けたまちづくり

01

子育て・教育支援の充実

- ▶切れ目のない子育て支援
- ▶保育所・子どもルーム入所待機児童の解消
- ▶こども誰でも通園制度の試行的事業
- ▶こども発達相談室

02

健康・福祉の充実

- ▶福祉まるごとサポートセンター（福まる）
- ▶健康づくりの充実
- ▶幕張海浜病院の整備

03

災害に強いまちづくり

- ▶災害対応体制の強化
- ▶防災力の向上

04

環境・自然の保全

- ▶脱炭素社会に向けた取り組み
- ▶河川を活用したまちづくりの推進

05

都市・交通

- ▶持続的な公共交通ネットワーク
- ▶公園の再整備・身近な公園のトイレ快適化

06

文化・芸術

- ▶千葉開府900年に向けた取り組み
- ▶千葉国際芸術祭2025の開催

07

地域の経済

- ▶雇用の確保・拡大

08

地域社会の充実

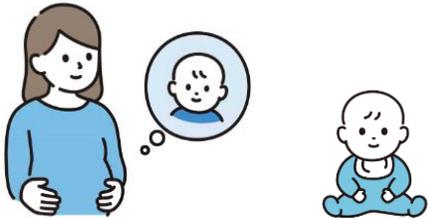
- ▶持続可能な市民主体のまちづくり
- ▶多文化共生社会の推進

切れ目のない子育て支援

社会全体で子育てを支え、子どもを産み育てたいと思える環境づくり

妊娠期からの支援

- ・伴走型相談支援
- ・エンゼルヘルパー派遣
- ・産後ケア(産後1年未満まで拡大)
- ・児童手当支給
- ・子ども医療費助成(高3まで拡大)
- ・こども発達相談室運営



子育てしやすい 保育環境の充実

- ・民間保育園等整備
- ・幼児教育・保育のバージョンアップ宣言
(幼児教育・保育人材支援センター
開設、公立保育所主食提供など)
- ・こども誰でも通園制度
- ・学校・保育施設等給食費等支援
- ・子どもルーム整備、
Wi-Fiの整備



・不登校対策の推進 ・教育環境の充実

- ・ライトポートの支援体制強化
- ・ステップルームティーチャー活用
- ・各種カウンセラー活用
- ・フリースクール運営委託

- ・学校トイレの洋式化
- ・体育館冷暖房設備整備
- ・小学校専科指導のための
非常勤講師の配置
- ・教員奨学金返還サポート



児童虐待防止対策の強化

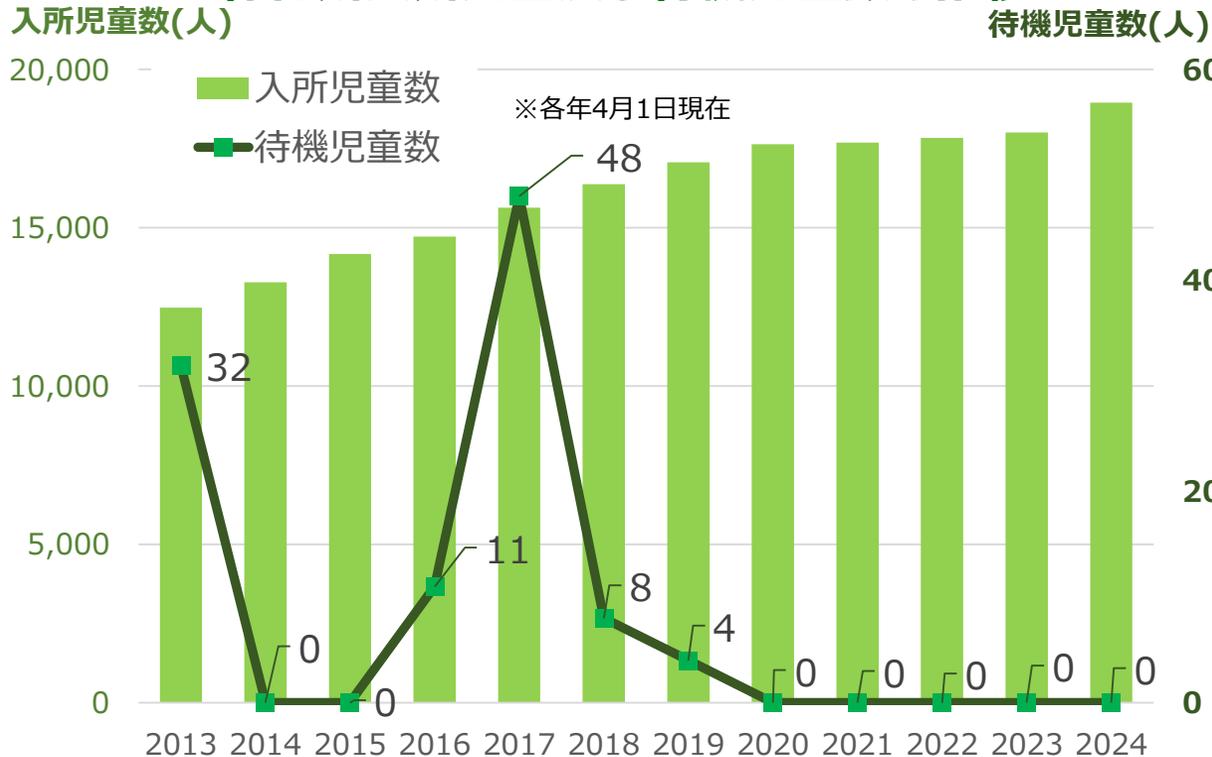
- ・新児童相談所等の整備(中央区未広)
- ・子ども家庭総合支援拠点管理・運営
- ・子育て世帯訪問支援

保育所・子どもルーム、入所待機児童の解消

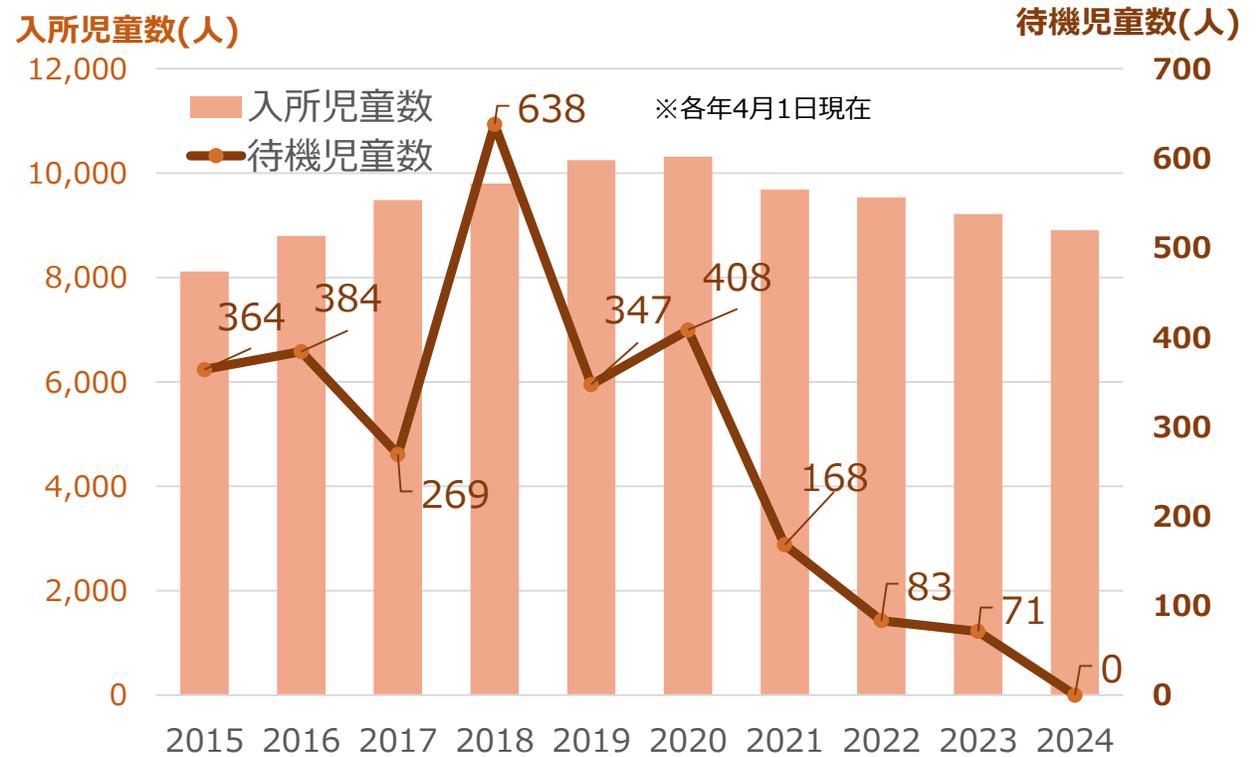
- 保育受け皿の大幅拡充により待機児童を削減
- 5年連続待機児童「ゼロ」達成！
- 保育士等の給与改善:補助上限を月額4万円/人に増額(R7.4~)

- 積極的な施設整備で受入枠を拡充
- 公設子どもルームの民間事業者委託など運営を多様化し、指導員の人材確保 待機児童「ゼロ」達成！

保育所入所児童及び待機児童数の推移



子どもルーム入所児童及び待機児童数の推移



※ 入所児童数の減少はアフタースクール移行などの取組みによる

不登校対策の推進

- ライトポートの支援体制強化
- ステップルームティーチャール活用
- 各種カウンセラー活用
- フリースクール運営委託・支援



<SRT 活用の様子>



<ライトポートでの栽培活動>

教育環境の充実

- 学校トイレの洋式化
- 市立小・中・特別支援・高校の体育館の冷暖房設備整備
- 小学校専科指導のための非常勤講師の配置
- 教員奨学金返還サポート



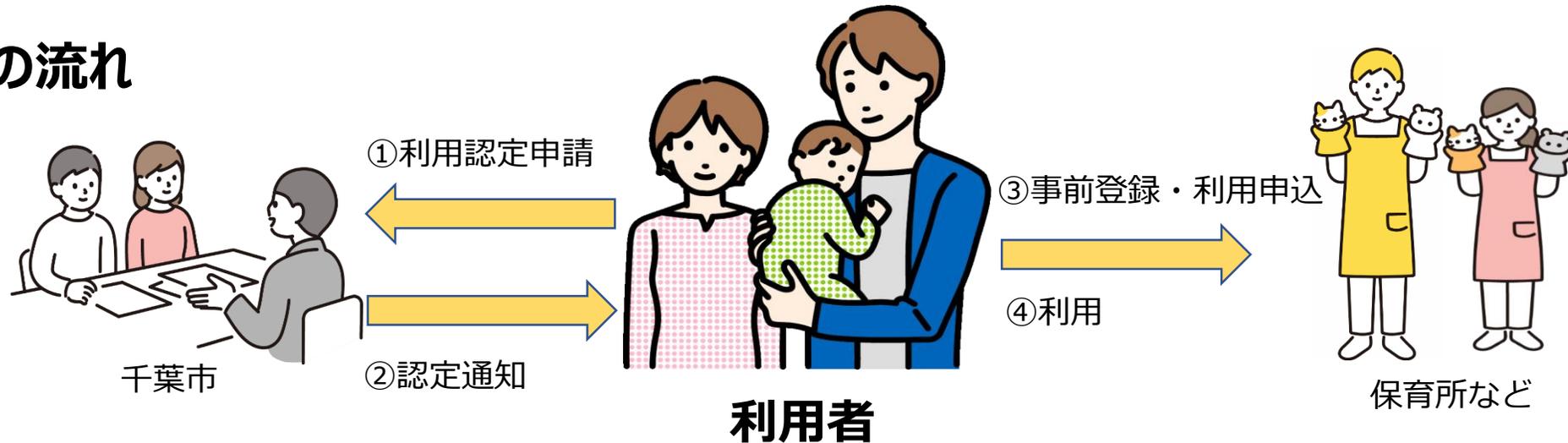
こども誰でも通園制度の本格実施を見据えた試行的事業 (2024年7月から施行)

事業概要

就労要件を問わず時間単位で柔軟に保育所等を利用できる「こども誰でも通園制度」を7月から試行的に実施している。

- ・ 利用対象者 … 保育所等に通所していない0歳6か月～満3歳未満児
- ・ 実施施設 … 保育所、認定こども園、幼稚園など、現在25か所
- ・ 利用時間 … 一人当たり「月10時間」を上限
- ・ 保護者負担額…300円/時間
- ・ 事業実施期間…2024年7月～2025年3月まで（予定）

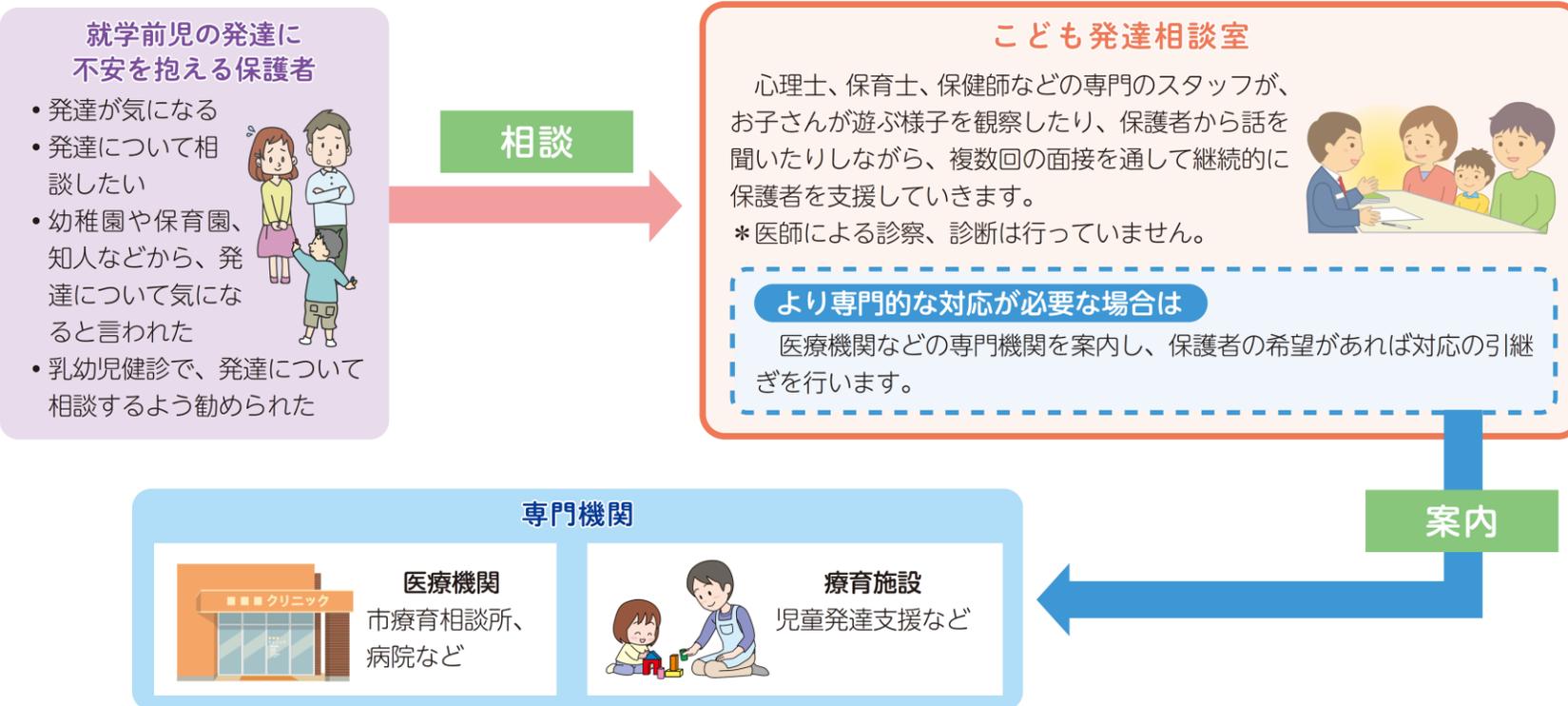
利用までの流れ



こども発達相談室

(2024年11月 ポートサイドタワー9階に開設)

- 就学前のお子さんの発達について、気軽に相談できる窓口
- 心理士、保育士、保健師などの専門スタッフが複数回の面接で継続的に支援
- 専門的な対応が必要な場合は、医療機関などの専門機関へ引き継ぎ



相談までの流れ

STEP 1 ホームページから相談日時の予約をしてください。

STEP 2 相談日時の予約が完了したら、続けて生育歴などの事前情報を入力するか、ホームページからダウンロードした初回面接用シートを記入して当日持参してください。

STEP 3 お子さんと一緒に来室し、面接を実施します。
* 初回60分、2回目以降45分

相談日時 月～金曜日9:00～17:00
(祝・休日、年末年始を除く)

場所 千葉ポートサイドタワー9階

対象 市内在住の就学前児と保護者

事前予約制
ホームページから申し込み



福祉まるごとサポートセンター（福まる）

（2023年10月開設）

- ① 包括的に相談を受け止める機能
- ② 関係機関協働のコーディネート機能
- ③ アウトリーチ機能

【開所時間】

月～土曜日 8：30～17：30
（祝・休日、年末年始を除く）

【場所】

千葉ポートサイドタワー11階

【相談方法】

電話、FAX、メール、来所

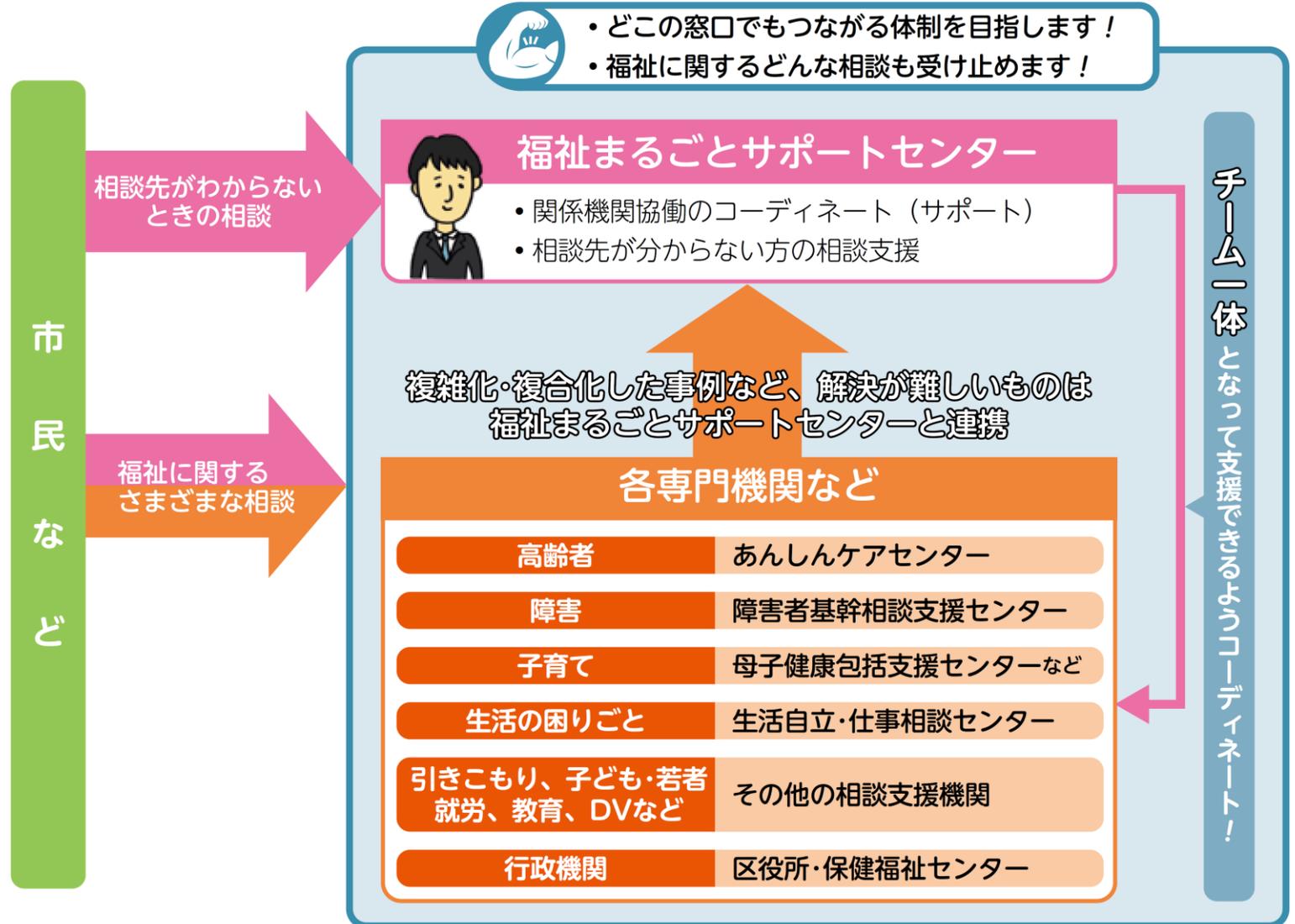
TEL：306-7125

FAX：306-7320

Eメール：

fukumaru-sc@city.chiba.lg.jp

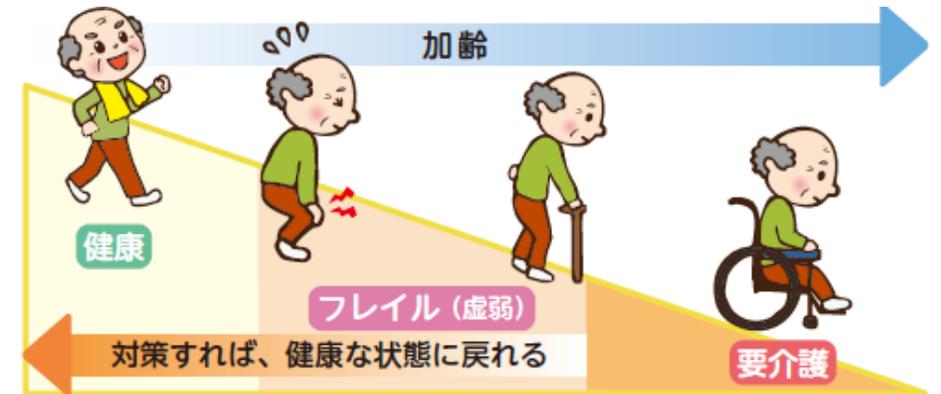
※家族や周りの方からの相談もお受けします



フレイル改善

フレイル状態の方に対し、リハビリテーション専門職が週に1回自宅に訪問し、身体機能や生活機能の回復に向けた、1週間の行動目標（ご自身で取り組んでいただくこと）と一緒に考えるとともに、毎週振り返りを行いながら、目標達成に向けたアドバイスを行います。

・支援期間：3か月～6か月



高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施

各区保健福祉センター健康課 保健師・管理栄養士・歯科衛生士・看護師

◆ 通いの場・イベント等

健康教育

参加者の状態把握

健康相談

◆ フレイルが疑われる方への個別支援

低栄養

口腔機能低下

運動機能低下

歯科口腔保健の推進

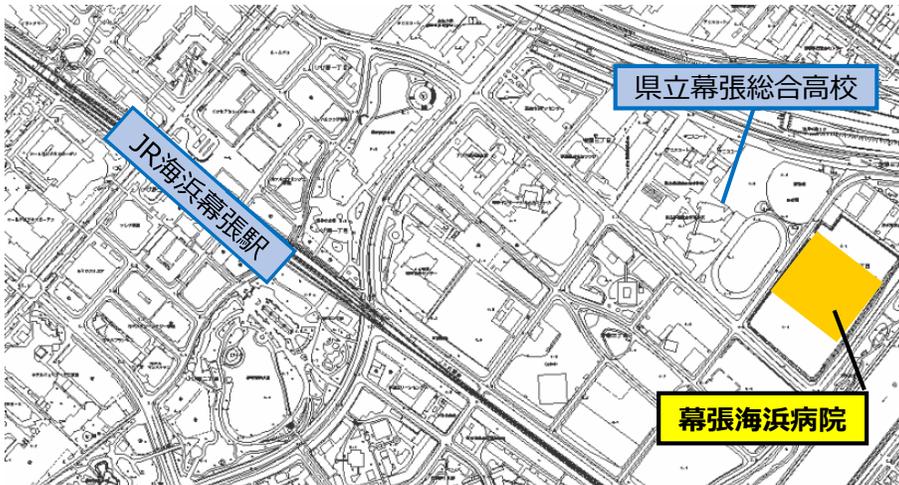
口腔機能健診の受診勧奨を行い、オーラルフレイルの早期発見を強化。歯周病検診の対象に30歳を追加。

新病院の整備 (名称案：千葉市立幕張海浜病院)

- ①胎児から高齢者まで切れ目のない医療の提供
- ②救急医療の強化
- ③災害医療の強化
- ④がん診療体制の強化
- ⑤感染対策の強化



外観イメージ (花見川通り側)



案内図



内観イメージ (総合受付)

災害対応体制の強化、防災力の向上

災害対応体制の強化

■ 防災アセスメント調査

長期的な視点に立った本市の防災対策の基礎資料とするため、大規模な風水害において想定される建物被害・人的被害や生活への影響を調査

調査結果は、避難所及び備蓄品の整備方針や災害時要配慮者の支援体制等の検討のほか、市内外への広域避難を視野に入れた高潮対策の検討などに活用

■ 防災備蓄倉庫の整備

新たに整備した、マンホールトイレや感染症対策物品などを保管するため、2020年度から2025年度までに264棟を追加整備

■ 避難所運営委員会の活動支援

避難所運営委員会の設立促進及び活動支援補助金等の支援

市民の防災意識と地域防災力の向上

■ 避難行動要支援者の支援体制強化

2025年度末までに約1,100人の個別避難計画を作成

消防力の充実・強化

■ 消防防災ヘリコプター「おおとり2号機」の機体更新

■ 365日運航体制



更新機種 レオナルド社製AW169型

脱炭素社会に向けた取組み

脱炭素先行地域事業

(計画期間：2023年～2028年)

- ・公共施設等への太陽光発電設備の設置
- ・清掃工場余剰電力を活用するためのシステム構築
- ・市遊休地への太陽光発電設備の導入に係る調査
- ・幕張メッセのLED化

2026年度に全ての市有施設の
電力消費に伴うCO2 排出実質ゼロを実現

市民（住まい・交通）に向けた取組み

- ・住宅用再エネ・省エネ設備等設置費助成
- ・次世代自動車購入費助成
- ・市役所市民駐車場に電動車用充電設備を整備

事業者に向けた取組み

- ・中小事業者向け省エネ設備導入費助成
- ・脱炭素推進パートナー支援制度

プラスチック分別収集・再資源化モデル事業

モデル地区において、プラスチック分別収集・再資源化、ごみ組成分析、アンケート調査などを実施



千葉市脱炭素キャラクター
エコ葉

河川を活用したまちづくりの推進

河川（都川、花見川、鹿島川）を活用し、人々と河川との良好なつながりを築き、地域活性化につなげていくため、河川空間とまちなかの公園などの地域資源を一体的に活用する社会実験などを行う。

- 都川
親水空間利活用社会実験
- 花見川
花島公園の利活用
花見川千本桜緑地の利活用
サイクリングコースの環境整備
- 鹿島川
気球体験

都川沿いの親水空間（本町公園）



鹿島川気球体験
※イメージ



花見川サイクリングコース



花見川千本桜緑地
（ちばかわまつり開催風景）



持続的な公共交通ネットワーク

千葉開府 900年
千の葉に 時を刻んで 900年

道路ネットワークの形成

千葉鎌ヶ谷松戸線の整備
平成29年8月開通



⇒武石 I Cへのアクセスが向上!

至 東京都心
羽田空港
で30分圏内!

(仮称)検見川・真砂スマートIC整備



ICイメージ

(仮称)検見川・真砂スマートIC整備

東京方面とのアクセス向上

国道357号

「検見川立体」の事業促進

国道357号の渋滞対策

赤色…千葉市事業

紫色…国直轄事業

国道357号湾岸千葉地区改良 (蘇我地区)

市役所前に続き6車線化整備



浜野四街道長沼線の整備

平成30年8月開通



至 圏央道
東金I.C.

至 圏央道
茂原北I.C.

大木戸I.C.のフル化
2017年3月開通

生実本納線 (旧外房有料道路)
2023年2月に無料化

持続的な公共交通ネットワーク

地域公共交通支援

路線バスやタクシーの運転手不足への対策として、運転手養成支援や求人支援を実施。

生活交通バス路線維持支援

生活交通として必要なバス路線を維持するため、バス事業者に対し、運行に係る経費の一部を助成。

大宮台地域コミュニティバス運行

2024年4月1日から路線バス廃止に伴い、新たなコミュニティバスを運行。



大宮台地域コミュニティバス
(おおみやバス)

京葉線のダイヤ改正に向けた取り組み

市民生活の維持や千葉市の将来にわたる持続性と発展性東京方面との速達性・混雑の平準化、幕張新都心・蘇我副都心等の拠点性の維持・確保

持続的な公共交通ネットワーク

新たな地域公共交通導入に向けた社会実験

地域特性などを考慮した地域主体によるデマンド型交通の社会実験を実施。
2024年度から新たに大椎台、下大和田地区を追加。



高津戸乗合タクシー

グリーンスローモビリティ（グリスロ）

スポット的に公共交通へのアクセスが困難な地域において、地域の方々とともに、地域の移動ニーズにきめ細かく対応。



グリスロ（桜木地域リスタート式）

電動サイクルシェアサービス（区域は順次拡大予定）

特定小型原動機付自転車シェアサービス実証実験を2024年1月から実施。

デジタルツインを活用した自動運転の安全性検証（全国初）

幕張新都心の一部を仮想空間上に再現し、人との衝突回避や荒天時、夜間の走行など、現実世界では実証実験の難しい様々な環境を設定し、シミュレーションを繰り返すことで、技術力の向上及び質の高い安全性検証を実施する。



デジタルツイン

公園の再整備・身近な公園のトイレの快適化

官民連携による公園の魅力向上

◆ 2024年4月 千葉公園に「芝庭」オープン

- Park-PFI制度を活用して飲食店、運動施設等の拠点施設や新たな賑わいや交流を生む施設を整備
- 産官学金が連携して子どもがアートや音楽を体験できる「寺子屋」



◆ 民活導入による再整備（幕張海浜公園の魅力向上）

- 「人も緑も健やかに。～ウェルネスライフの幕開け」をコンセプトに、広場やカフェ、明るく快適な緑陰などを整備
- 海浜幕張駅蘇我方向の新改札口と連携
- 2027年夏頃オープン予定



身近な公園のトイレ快適化

- 身近な公園の便器洋式化
- 身近な公園のトイレ内外装の改修：2公園
- 建替え実施設計 2棟
- トイレ清掃回数の増加



稲毛公園のトイレ（改修後）

千葉開府900年に向けた取組み・千葉国際芸術祭2025の開催



千葉開府900年に向けた取組み

1126年6月1日

桓武天皇の子孫、常重(つねしげ)が現在の中央区亥鼻付近に本拠を移す →千葉市のまちとしての歴史の始まり

2026年は千葉開府900年

- 「千葉一族からの学びを活かし、未来へ向けたひとづくり、文化づくり」を基本理念とし、記念事業を実施。
 - 先行期間：2025年度
 - 記念期間：2026年度
- 千葉開府900年記念事業を多くの市民や企業の皆様と共に作り上げていくための仕組みとして「メンバーシップ制度」を創設。



千葉開府900年

千の葉に 時を刻んで 900年

千葉国際芸術祭2025の開催（プレ会期）

本市の資源や魅力を内外に広く発信するため、2025年度に「千葉国際芸術祭2025」開催。以降も、定期開催予定。

【千葉国際芸術祭2025プレ企画】

- 「わたしの千葉市！
テーマパークの模型を作ろう！」
- かえっこバザール
(そごう千葉店、花見川団地)



千葉国際芸術祭2025

Chiba City Arts Triennale 2025

ちから、ひらく。

郷土博物館のリニューアル

千葉開府900年に向けて、常設展示の全面的なリニューアルを行う。オープンは2025年秋を予定。



中小企業のリスキング促進

今後も生き残れる企業・職業人であり続けるため、
従業員の育成・能力開発の促進、様々な学びが必要

【助成制度のポイント】

- ・助成対象の**研修内容が制限なし**に！社内研修も利用可。
- ・研修のほか、**資格取得費用にも使える**！
- ・**年間研修計画を策定**して支援を申し込むと、1社当たり助成額**上限が5万円→10万円にUP**！

＜助成対象経費＞

- ・外部研修受講料
- ・テキスト代、教材費
- ・内部研修実施時の外部講師謝金、旅費
- ・資格試験対策講座受講料
- ・資格試験受験料



【効果、課題】

- ・「**企業の人材育成ニーズに応えやすくなった。**」「**以前の制度より使いやすくなった**」との意見多数。
- ・「**良い制度だが、10万円では不足**」との声も。

雇用の確保・拡大

運輸業・建設業の資格取得支援

- ・運輸業・建設業の恒常的な人手不足
- ・2024年4月～時間外労働の上限規制が本格適用



運輸業・建設業の従業員に取得が求められる
一部資格の取得費用を助成

<主な対象資格>

運輸業：自動車第一種免許（普通車除く）、運行管理者、自動車整備士
建設業：施工管理技士、電気工事士、電気主任技術者

【効果、課題】

- ・人手不足業界の幅広いニーズへの対応が可能に
- ・製造業資格職の人手不足への対応

企業立地促進、産業用地確保により
雇用を創出

- ・2015～2022年度までの補助金交付企業が
これまでに12,000人以上の雇用を創出

例：メルセデスベンツ日本(株)/メルセデス・ベンツ・ファイナンス(株) 本社
東洋エンジニアリング(株) 本社
イオンネクスト(株) 次世代型ネットスーパー拠点
(株)Peace Deli 食品製造工場

- ・官民連携により産業用地を整備するとともに、企業誘致
にも取り組んでいる



ネクストコア千葉誉田

町内自治会DX化モデル事業

1 目的

町内自治会業務へデジタルを活用することにより、活動への参加しやすさの向上や負担軽減等の効果、支援策について検証を行う。

2 実施内容

2つのテーマに分け、それぞれモデル事業を実施する。

テーマ①：アプリを活用した情報共有・地域交流

テーマ②：役員業務の負担軽減

日本語教室運営助成

外国につながりを持つ児童生徒のための日本語教室を運営する団体に対し助成



日本語教室の様子

外国人市民向けごみ出しルール周知啓発

外国人市民向けチラシを作成し、市内大学と連携し留学生への周知啓発を実施。本実施状況を効果検証しながら、留学生以外への周知啓発につなげていく。

コミュニティ通訳・翻訳サポーター制度

外国人市民の円滑な意思疎通や情報伝達を支援するため、支援を必要とする外国人市民と通訳・翻訳ボランティアをマッチングする制度。